

## 気候情報

### 2014年11月の日本の天候

- 全国的に高温
- 北日本日本海側で少雨，多照
- 中旬に強い寒気が南下

#### 11月の天気概況

低気圧と高気圧が交互に通過し、全国的に天気は数日の周期で変わった。上旬は、東・西日本太平洋側では気圧の谷や前線の影響で曇りや雨の日が多く、日照時間が少なかった。中旬は冬型の気圧配置の日が多く、日本海側では曇りや雨または雪、太平洋側では晴れの日が多くなった。また、東・西日本と沖縄・奄美では旬平均気温が低くなった。下旬の前半は移動性高気圧に覆われ全国的に晴れた日が多く、後半は、東・西日本や沖縄・奄美では雨の日が多く、南からの暖かい空気が流れ込みやすかったため、全国的に気温がかなり高くなった。

月としては、中旬を除き寒気の影響が弱かったため、全国的に気温が高く、北日本日本海側では降水量がかなり少なく、日照時間がかなり多かった。

**上旬：**東・西日本太平洋側では、曇りや雨の日が多かった。3日から4日にかけては低気圧が発達しながら日本海からオホーツク海に進み、日本付近は冬型の気圧配置となった。このため、日本海側では曇りや雨または雪となり、北日本を中心に大荒れの天気となった。また、4日から5日にかけては台風第20号とその北側の前線が日本の南から北上したため、東日本太平洋側を中心に曇りや雨となった。沖縄・奄美では気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨となった日もあったが、高気圧に覆われ、晴れた日が多かった。旬平均気温は、北・東日本で高く、西日本と沖縄・奄美は平年並だった。旬降水量は、西日本太平洋側で多く、北・東日本と西日本日本海側、沖縄・奄美は平年並だった。旬間日照時間は、北日本太平洋側で多く、東・西日本太平洋側で少なかった。北・東・西日本日本海側と沖縄・奄美は平年並だった。

**中旬：**冬型の気圧配置となる日が多く、北日本から西日本にかけての日本海側では曇りや雨または雪となり、太平洋側では晴れた日が多かった。特に、13日から15日にかけては強い冬型の気圧配置となって、北日本と東日本日本海側では大荒れの天気となり、札幌では15日に25 cmの最深積雪となるなど、北日本では局地的に大雪となった所があった。一方、沖縄・奄美では、高気圧に覆われ晴れた日もあったものの、気圧の谷や寒気の影響で曇った日が多かった。旬平均気温は、東・西日本と沖縄・奄美で低く、北日本は平年並だった。旬降水量は、西日本でかなり少なく、北日本と東日本太平洋側、沖縄・奄美で少なかった。東日本日本海側では平年並だった。旬間日照時間は、東・西日本太平洋側で多く、北日本、東・西日本日本海側、沖縄・奄美では平年並だった。

**下旬：**旬の前半は、全国的に晴れたが、後半は低気圧や前線が短い周期で日本付近を通過し、西日本日本海側では降水量がかなり多くなった。沖縄・奄美では、27日から28日にかけて気圧の谷の影響により下地（沖縄県宮古島市）で365.5 mmの雨が降るなど、先島諸島では大雨となった。一方、北日本日本海側では降水量がかなり少なく、日照時間がかなり多かった。また、全国的に顕著な高温となり、沖縄・奄美では旬平均気温が+2.2℃となり、1961年の統計開始以来、11月下旬としては1997年と並んで最も高い記録となった。旬平均気温は、全国的にかなり高かった。旬降水量は、北日本日本海側でかなり少なく、東日本日本海側で少なかった。一方、西日本日本海側ではかなり多く、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美で多かった。北日本太平洋側は平年並だった。旬間日照時間は、北日本日本海側と沖縄・奄美でかなり多く、東日本日本海側で多かった。一方、東日本太平洋側では少なかった。北日本太平洋側と西日本では平年並だった。

#### 11月の気候統計

**月平均気温：**全国的に高かった。

**月降水量：**北日本日本海側でかなり少なく、東日本日本海側で少なかった。西日本日本海側と北・東・西日本太平洋側、沖縄・奄美では平年並だった。

**月間日照時間：**北日本日本海側でかなり多く、沖縄・奄美で多かった。一方、東日本太平洋側では少なかった。北日本太平洋側、東日本日本海側と西日本は平年並だった。

(気象庁観測部情報管理室)

#### 11月の記録（1位更新なし）

#### 2014年11月の平年差（比）図

